

沼間小学校区地域連合会だより

発行責任者 永瀬 寿重

“地域で困っている課題をひとつずつ解決していく”

永瀬 寿重 会長（沼間3丁目自治会）

夏の猛暑も過ぎ去り、秋の気配の風を身に浸る近頃となりましたが、皆様ご清栄のことと思います。

はじめに私事で申し訳ありませんが、最近健康が大変気に掛かるようになりました。昨年6月に大病にかかり、医師より余命数か月と言われ、入院治療と相成りました。治療のおかげで、再び第二の人生を送ることができるようになり、あらためて健康の大切さが重要と思うようになりました。皆様も健康を第一に、身体を大切に毎日を送っていただきたいと思えます。

さて、沼間小学校区の住民自治協議会も6月に、交付金が交付され本格的な活動を始めましたが、会長方針として、まだまだ協議会が地に根ざしていないことから、大々的な活動は近い将来の課題としまして、当面は地味な活動を行うことといたしました。

したがいまして、現在は地域として困っていることを1つずつ解決すべく努力しております。地域の皆様が困っていることがありましたら、住民自治協議会にご一報いただければ、何かとご協力、ご援助ができると思いますので、役員に自由にご一報下さい。

先月、突然逗子市内に再び総合的病院誘致の話題が沸き起こりました。市長を中心にして熱心に誘致活動をしていただいております、深く感謝し、期待もしております。当沼間小学校区の近隣の方々の迷惑を十分に理解し、色々と対策を考えていただいたうえで、総合的病院を逗子市内に誘致できるよう、市長をお願いいたしたいと考えております。

また、想像できない、風水害の被害が全国的に発生しており、当住民自治協議会も山肌に沿って発達している地域でもありますので、地域全体と自分自身の身を守ることを第一として隣り近所の絆を濃密にしお互い助け合い、より良い地域といたく皆様のご協力をお願いいたします。最後に皆様の当住民自治協議会への厚いご協力に感謝いたします。

～ 市長、総合的病院誘致について説明 ～

9月24日（土）に開催された代表者会議に、急遽平井市長が出席し、逗子市内に総合的病院をあらためて誘致する取組みを行いたい旨の説明がありました。

市長による説明ののち、各地区の代表者から過去の経緯や今後の見通し、実現までの多くの課題について熱心な質疑応答がありました。



代表者会議で説明する平井市長

第10回 沼間小学校地区避難所運営訓練が実施される

避難所運営訓練に多くの住民が参加！

9月24日（土）9時30分から、沼間小学校地区では第10回避難所運営訓練を大災害時の拠点である沼間中学校で
○実際の避難所のイメージを持っておく
○実際に避難所を立ち上げなければならない時に、ご参加の皆さんにも避難所立ち上げのお手伝いをさせていただく
この2つの目的で行いました。



運営本部と情報広報班（後方）

訓練には家族・住民同士やシニア世代・沼間中学校のボランティア（20名）・逗子葉山アマチュア無線クラブの支援など総勢185名が参加し、中には初めて参加する住民もかなり見られました。

今回の訓練は、実践的な避難所での生活や体験型の訓練を行い、さらに「避難所を適正に運営するための共通ルール・10項目」を案内マップに添付して訓練に参加した住民に配布しました。各自治会・町内会・管理組合単位で編成する8つの活動班（本部・総務・名簿・情報広報・救護衛生・食糧・物資・ボランティア）がそれぞれ企画立案・事前準備・訓練の実施までを担当しました。

また、新しい試みとして、中学校の格技室に「要支援者用避難場所」を設け、車椅子や弱者に対する支援活動の訓練を行いました。

見学できる内容

- 名簿班・避難者データ整理、住所別掲示
- 救援センター・負傷者等の簡単な応急手当、携帯トイレ展示
- 情報広報班・訓練状況をツイッター、フェイスブックで発信
- ボランティア班・ボランティアの調整と避難所内派遣

体験できる内容

- 投光器・発電機体験
- ろ水器体験
- 仮設トイレ組立体験
- アルファ米調理体験
- 物資班倉庫物資確認体験



アルファ米調理中の食糧班

等の訓練プログラム・会場の配置・体験場所と時間などを記載した案内マップを作成し、参加者に配布して訓練の円滑な進行を図りました。



体育館に避難した住民

大災害時に備えできるだけ多くの住民があらかじめ避難所を体験し見ておくことが大事です。今回の訓練に多くの住民が参加されたことは、防災に関する住民の危機管理意識の高まりと避難所運営委員会に参加されている自治会・町内会・管理組合の役員の方々による広報活動の成果であります。来年の第11回訓練（沼間小学校会場）にはさらに多くの住民の方々が参加され、地域の防災能力が一層向上することを期待しています。

沼間小学校地区避難所運営委員会 会長 菅波芳信

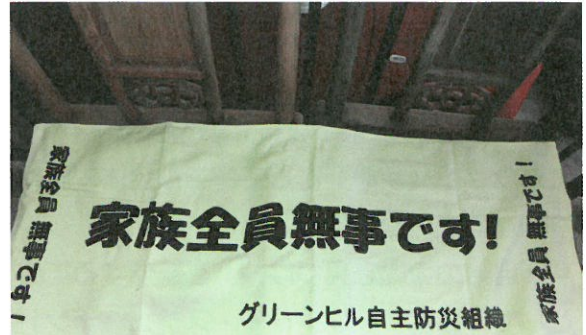
情報提供 災害時の“安否タオル” ～逗子グリーンヒル自治会の取組～

逗子グリーンヒル自治会（会員数404世帯）は、5年前の東日本大震災や今年4月の熊本地震の教訓を自分たちの危機意識ととらえ、グリーンヒル自主防災組織（防災部米山部長）の発案により、本年度の防災部予算内で黄色の安否タオル「家族全員無事です！グリーンヒル自主防災組織」を作成しました。

この安否タオルは大地震等の災害時に使用します。災害時、在宅の家族が要支援のケガを負っていない場合は家の外の目立つ場所に縛ってもらいます。

一方、安否タオルが掲げられていないお宅には、各ブロックの理事又は代理、見回りサポーターが、お声をかけることとしています。助け合いの精神から安否タオルは自治会員以外の方にもお配りしています（総計で430世帯）。

もし、安否タオルを紛失してしまった場合は黄色タオルで代用が可能です。グリーンヒル等の各種ボランティア団体と連携しながら、安心安全なグリーンヒルを推進するために全戸配布し、災害時に活用します。

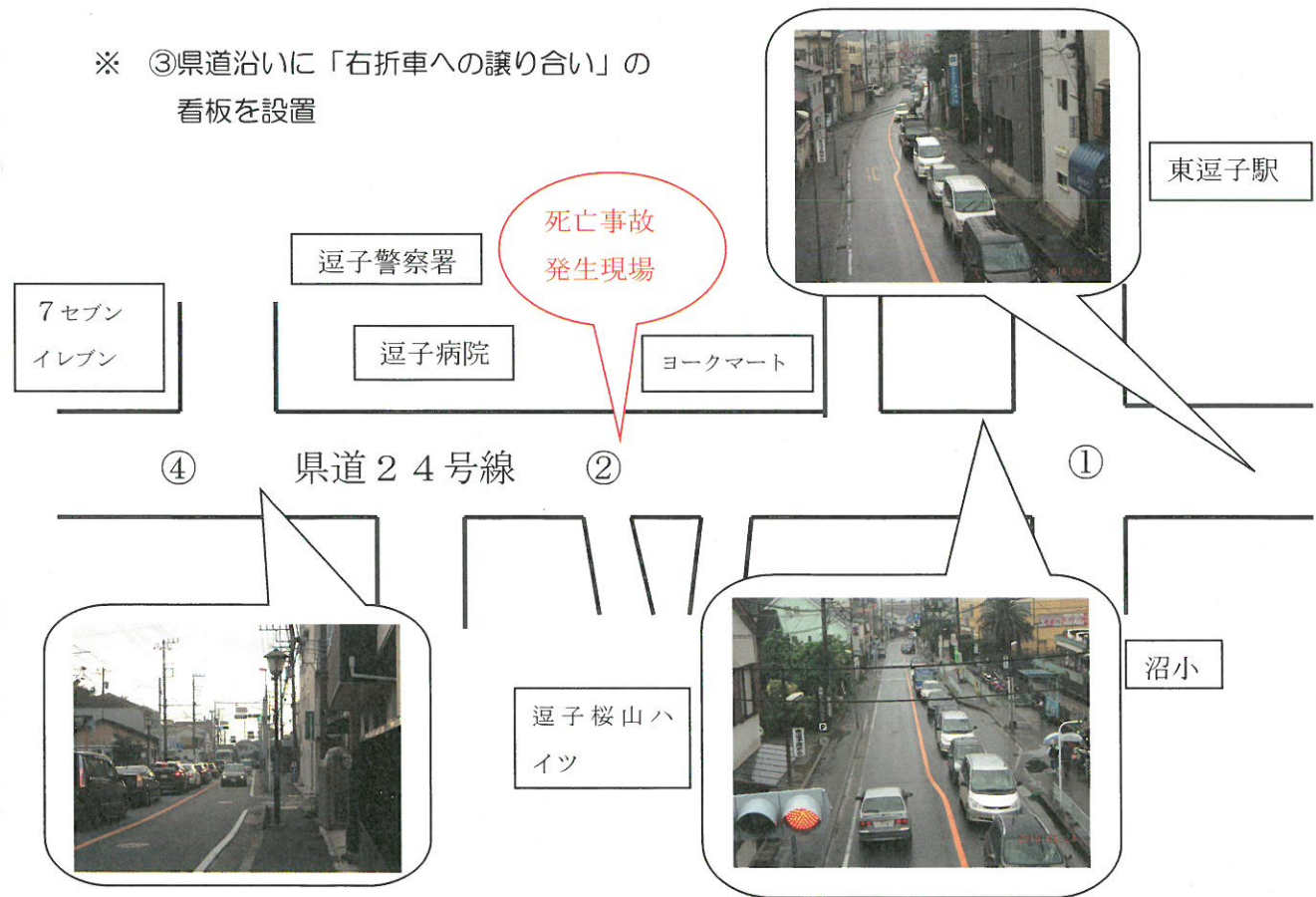


逗子グリーンヒル自治会 会長 副島光彦

特集記事 県道24号線(バス通り)の渋滞解消に向けた取組

沼間小学校区地域連合会では、「県道渋滞対策検討委員会」を設置し、地域内の交通渋滞解消に向けた取組を進めています。多くの課題の中から、①東逗子駅周辺の渋滞解消 ②死亡事故発生現場への歩道と信号機の設置 ③右折車への譲り合い運動の推進 に重点的に取り組み、さらに④逗子警察署入口交差点周辺の渋滞解消 にも計画的に取り組んでいく予定です。当面、市都市整備課、逗子警察署、県横須賀土木事務所と、信号機の調整や右折車線の確保等について相談していきます。

※ ③県道沿いに「右折車への譲り合い」の看板を設置



沼間小学校区地域連合会の構成団体であり、避難所運営訓練では多くの生徒、教員がボランティアとして活躍してくれています沼間中学校の奥村文隆校長に寄稿していただきました。

本校着任から3年間、「自分の宝物を見つけ、仲間と共に磨く」「大人になる」場としての学校づくりをミッション（使命）として、学校全体で少しずつ取り組んでまいりました。

「自分の宝物を見つけ～」を達成するための一つとして、毎月「トレジャー・スチューデント」と呼ぶ、生徒の前向きな行い（学習を頑張った、リーダーシップを発揮した、部活で頑張った、絵の才能を発揮した等々）を表彰してきました。毎年、延べで300～400名の生徒が校長室を訪れました。名前を書いてもらった色紙がたくさんたまりました。また、先生達は、生徒の良さを見つけ褒めていこうという「プラスのストローク」で生徒と接してきました。

「大人になる」の方途としては、五つの自立（生活的・経済的・精神的・身体的・社会的）と13のコンピテンシー（汎用的能力）を掲げ、授業も含めてあらゆる教育活動でこれらの力を培うことを目指しています。毎年、6月と1月に、この五つの自立と13のコンピテンシーが身に付いたか、生徒の自己評価を行ってもらっていますが、3年生になるに従って徐々に自己評価が上がっていき、毎年自信を持って卒業していってくれます。

特に今の3年生は1年生の時から、市民性教育とキャリア教育を結びつけた「沼中ラーニング」に取り組み、「私たちの街・逗子」を考えてきました。今年の7月には、市長さんをお呼びして、中学生からの「市への提言」をプレゼンテーションしました。逗子市の名産となるお菓子を作ったり、パワーポイントで「逗子アプリをつくろう」といったいくつかの提言を行いました。その中で「逗子アプリ」は市の施策として実現の方向でご検討いただけるとのこと、大変嬉しく思っております。

9月17日（土）に行われた体育祭も、3年生が見事に1・2年生をリードして立派な体育祭を創り上げてくれました。何より、ころんでも、大きく引

き離されても、最後まであきらめず全力でゴールを目指した姿、それぞれの係に一生懸命取り組む姿、「教師バカ」になりますが、なかなかこんな中学生がいる学校はありません。

「緑の丘の宇宙船」に集う沼中生は、素晴らしい生徒達です。



奥村文隆校長

取材 桜山4丁目町内会文化展

桜山4丁目町内会では、一昨年から町内会会員等による絵画（油彩・水墨画・水彩など）、写真、書、ドレス、手工芸、キルト、押し花、折り紙、ちぎり絵、クラフトなどの作品を展示する文化展を開催しています。10月2日（日）に逗子商工会館研修室で開催された第3回文化展にお邪魔しました。いくつかの作品を紹介します。

